

図書館だより



図書館だより 2022 第 5 号
2023 年 3 月 20 日発行
名寄市立大学図書館運営委員会
名寄市立大学図書館
〒096-8641
名寄市西 4 条北 8 丁目 1 番地

推薦図書コーナー～新たな一步を踏出す貴方へ～

今号で今年度の図書館だよりも最終号となりました。図書館のイベントや活動内容をお知らせするとともに、在学生の皆さんに読んで欲しい本を「推薦図書コーナー」で紹介してきましたが、いかがでしたでしょうか。

卒業・就職・進学・進級・入学……4 月から新たな一步を踏出される皆さんが、これからも学びの支えや、知識・教養を深める友として、本を活用してくださることを願っています。私達図書館職員も、皆さんのご利用の助けとなれるよう努めてまいりますので、どうぞお気軽にお声がけください。

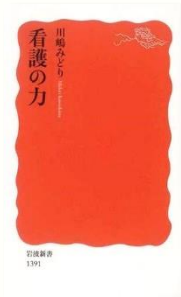
今回は、新入生の皆さんに向けて、本学教員よりお勧めしたい本をご紹介します。新入生は勿論、在学生の皆さんにもお勧めですので、この機会に是非ご一読ください。

永谷 智恵 先生(看護学科教授)より

『**看護の力**』川嶋みどり著、岩波書店【当館所蔵有：B492.9/K】

高度な医療が推し進められている中、看護は、時代の要請に応じ専門性が細分化されています。しかし、どんなに医療が発展しても、看護の本質は変わっていない。

看護は、この手を通じ、その人が本来持っている「治る力」を最大限引き出します。これから看護を学ぶ皆さんにぜひ読んで欲しい、看護の力を感じる一冊です。



泉 史郎 先生(栄養学科助教)より

『**佐々木敏のデータ栄養学のすすめ 氾濫し混乱する「食と健康」の情報を整理する**』

佐々木敏著、女子栄養大学出版部【当館所蔵有：498.55/S】

皆さんの周りにあふれる食と健康の情報は果たして本当でしょうか？

本書は「データを確認する」ということの大切さが分かるだけでなく、その時代背景や歴史も含めて知ることができる読み物としても教養に富んだ内容です。

栄養学科の学生だけでなく、人の健康や暮らしと関わる全ての学生の皆さんにおすすめの一冊です。



榊原 次郎 先生(社会福祉学科准教授)より

『**患者とともに 寄り添う医療ソーシャルワーク**』

川村博文著、新潮社【今後当館に入荷予定です】

皆さんは医療ソーシャルワーカーという職業を知っていますか？

病院などで相談支援の専門職として働く社会福祉士等を指します。

この本は医療ソーシャルワーカーであった著者の目を通して、様々な背景をもつ患者さんに寄り添い続けた実践事例集です。

寄り添うとはどういうことなんだろうと悩んでいる人におすすめの一冊です。



菊池 稔 先生(社会保育学科講師)より

『**かわいそうなぞう**』つちやゆきお ぶん、たけべもといちろう え、金の星社

【当館所蔵有：JE/T】

この絵本は、戦争下の上野動物園で亡くなってしまった 3 匹の象の実話から作られています。戦争のために死んでいかなければならなかった動物たちの悲しみや、仕事のために殺さなければいけなかった飼育員の葛藤など戦争についてよく考えさせられる名作です。



小古間 甚一 先生(教養教育部教授)より

『**新装版 日本語の作文技術**』本多勝一著 講談社【当館所蔵有：816/H】

日本語の書き方が学べる最高の一冊。新聞記者だった本多勝一が「読む側にとってわかりやすい文章」の書き方を、事例を示しながら伝授してくれます。

文庫版（朝日文庫）もありますが、内容をよりコンパクトにまとめた「新装版」のほうをお勧めします。



『**知的複眼思考法 誰でも持っている創造力のスイッチ**』

苅谷剛彦著 講談社【当館所蔵有：B141.5/K】

本書のキーワード「複眼的思考法」について、「ステレオタイプから抜け出して、それを相対化する視点をもつことが重要です。複眼的思考とは、複数の視点を自由に行き来することで、一つの視点にとらわれない相対的思考法」と説明されています。

さらに本書には「創造的読書」「考えるための作文技法」「問いの立て方と展開の仕方」など大学で学習するうえで必要なノウハウが詰まっています。

大学での学びに役立つ 1 冊です。ぜひ一読を。



お知らせ

3 月・4 月の短縮開館期間について

3 月・4 月は、下記の日程で午前 9 時～午後 5 時までの短縮開館となります。

短縮開館日：3 月 1 日(水)～3 月 6 日(月)、3 月 10(金)～3 月 31 日(金)、

4 月 1 日(土)～4 月 8 日(土)

休館日：日曜日及び祝日、3 月 7 日(火)～3 月 9 日(木) (蔵書点検休館)

4 月より図書館システムが更新されます

利用方法や蔵書検索(OPAC)に大きな違いは生じませんが、一部 UI(ユーザインタフェース)が変更・追加されます。詳細は次年度の図書館ガイダンスにて説明予定です。